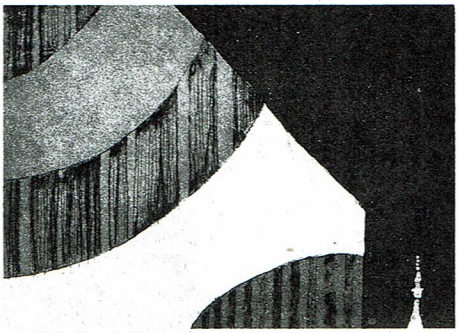
朝日 歌壇 俳壇



〈街かど　上野Ⅱ〉　岩尾恵都子

佐佐木幸綱選

☆スーパーへ買い出しに来るママチャリの力士　（吹田市）中村　玲子
見かけて大阪は春
柔らかな春風ほわんと包み込み手編みのセーター箪笥にしまう　（尼崎市）麻殖生容子
昨日まで子のいた部屋を掃除する春風そっと通り過ぎゆく　（東京都）渡辺　美香
箱崎の中にてもがく猪の鈍き音する山坂登る　（館山市）川名　房吉
開発で里山の森がなくなって住宅の屋根でフクロウが鳴く　（出雲市）塩田　直也
保育士の妻は園児に囲まれて大黒頭巾とちゃんちゃんこ着る　（戸田市）蜂巣　幸彦
車椅子の父と父似の我だけがエレベーターの鏡に映る　（新潟市）古川　範子
来年はひろい視界で見えますよサクラ並木を行く教習車　（南魚沼市）木村　圭
引き出しの中にごろごろ消しゴムで消したい物など何もないのに　（新潟市）野澤　千恵
子のなきが母となりきり菜を刻むこども食堂　（東京都）新沢しんこ
夕焼け小焼け

【評】第一首、大阪場所が開催される春三月ならではの風景。どことなくユーモラスなのが嬉しい。第二首、そろそろ冬物の衣類をしまう季節。上句、軽々とした表現に注目。第三首、就学または就職で家を出たのだろう。場面の取り方がうまい。

高野公彦選

福井まで新幹線の延びた日に最寄り駅より一輛車に乗る　（長野県）千葉　俊彦
難波津の葦はミモザの花となる三月八日の朝日の題字　（奈良市）山添　聖子
東西で新聞題字の背景が違うと気づく移住五年目　（つくば市）山瀬佳代子
☆妻の骨壺いつぱいに拾ひたり脚を支へし金具残して　（山口県）山花　俊作
賃上げの報道聞いて何となく取り残される年金受給者　（菊池市）神谷紀美子
富士山に朴の木のあり朴の木に風を集めて朴若葉あり　（熊谷市）内野　修
吾が歌の載ることもなき新聞をコンビニで買ふ速歩のあした　（四国中央市）宮崎　初枝
文庫本持つ三人　夏の大三角　そんな星座を車内に生み出す　（京都市）長谷川恵子
合掌が子から孫へと受けつがれいただきますは感謝のことば　（西条市）村上　敏之
足首の痛みこらえて坂登る孫合格のお礼参りに　（香芝市）新熊　早苗

【評】一首目、北陸新幹線が福井まで延伸した日、長野で一輛の電車に乗る寂しさ。二首目、国際女性デーを記念して当日の題字の背景は色刷りの美しいミモザの花。三首目、題字の背景は東日本では桜、西日本では葦。

永田和宏選

しつかりと今年も蕾つけてゐる津波到達ラインの桜　（村上市）鈴木　正芳
河口より四キロを示す標識の花菜明かりの二時四十六分　（小城市）福地　由親
はじめてのうすい半紙にかな文字を書いてみましたむらさきしきぶ（大阪市）大さか小うめ
【還付金】納め過ぎたる税金を納税者に返す金―広辞苑　（近江八幡市）寺下　吉則
裏金だパーティーだなどと騒ぐ間にほらほら兵器を売る国となる　（鎌倉市）小笹岐美子
子らはどう学ぶのだろう武器輸出するこの国の平和憲法　（佐渡市）藍原　秋子
☆スーパーへ買い出しに来るママチャリの力士見かけて大阪は春　（吹田市）中村　玲子
ぶら下げた笊から釣銭返しくる谷中の八百屋夕日の階段　（東京都）三角　逸郎
☆妻の骨壺いつぱいに拾ひたり脚を支へし金具残して　（山口県）山花　俊作
猫を飼うとみんなどうして生活が猫中心になるのだろうか　（宝塚市）小竹　哲

【評】一、二首目いずれも東日本大震災の津波を。穏やかな自然の中にも記憶は風化しない。大さかさんは小学三年生。「めぐりあひて」なんて難しすぎるよね。寺下さん、弁明の前にちゃんと広辞苑を引いてごらんと。十首目、わが家も同じ。

馬場あき子選

原爆の父なるオッペンハイマーにゴジラが吼えた三月十日　（新庄市）大山　慎一
歌を詠み書き置くことで抑留を耐え抜きにけむ「白樺日誌」　（さいたま市）大浦　健
オスプレイイージス艦に戦闘機いよいよ基地に定着したり　（盛岡市）堀米　公子
卒業の高校生が船長に花束渡す小豆島港　（観音寺市）篠原　俊則
横浜の洋館めぐりいつもよりゆっくり進む姉妹の時計　（富山市）松田　梨子
9条の会導きくれし先生よ聖書を読みて静かに逝きたまう　（江別市）成田　強
平和とは自分が好きな職業を選べることとMISIAは言った　（佐伯市）川西　敦子
静の聡太・動の翔平なかりせば国民はみな永田町鬱　（三鷹市）山縣　駿介
花大根のうすむらさきは祖母の色一生働きわれを愛しみ　（名古屋市）山守　美紀
吾は読書小犬は玩具暇え遊ぶ一人と一匹の宇宙更けゆく　（山口県）庄田　順子

【評】第一首は今年アカデミー賞視覚効果賞を得た「ゴジラ―1.0」。原爆の父オッペンハイマーをも威嚇して吼えているという発想。第二首の「白樺日誌」は瀬野修氏のシベリア抑留中の記録。紙が得られず白樺の皮を紙代わりにして書かれている。

うたをよむ　学びやの春

駒田　晶子

春。あたらしい生活の始まりだ。
せんせいにこれあげるよ、と小学生ら
帰りしのちにのこる日だまり　齋藤芳生

作者の仕事は、塾講師。生徒と保護者が望む進学先へ通えるよう、結果を残さなくてはならない。結果がすべて。けれど、望んだ進路が得られなくても、人生は続く。「日だまり」を見つめる作者の視線は、あたたかく、やさしい。

教師といふ愚かでしかもおもしろい仕事をまたもわれはするなり　染野太朗

作者は、一度、教師という仕事から離れていたのだ。第二・三句の「愚か」「おもしろい」の相反する言葉のぶつかり合い、「しかも」「またも」のリズムの繰り返しに、抑えきれない心の弾みが滲む。

はつなつの定時制高校の朝　生徒三人が断食月に入る　梶原さい子

まさにグローバル社会。作者が勤める高校に、イスラム教徒の生徒がいるのだ。信じる宗教が異なれば、生活だって異なる。いくつかの機材を隅に片寄せて放送室をモスクと為しつ〉。それぞれの生徒に添うべく、学校側をほんの少し変化させる。ちいさな変化が、やさしく心地よい。

じゃれあって入り組む汗も歓声もときに怒号もそれが教室　大松達知

私は、学校が好きではなかった。いろいろな人が居て、疲れた。けれど今は、大事な場所だったのだと思える。自分と異なる人が存在するということ。この事実を体感できるだけで、学校の、学校である理由なのだ。生徒も、先生も、頑張りすぎず、春の空気を吸いましょう。（歌人）

風信

高野公彦著「歌の魅力の源泉を汲む　わが意中の歌人たち」　若山牧水や寺山修司、水原紫苑ら近現代の歌人18人の歌の特徴や魅力をつづった評論集。（柊書房・3080円）

第35回斎藤茂吉短歌文学賞　同賞運営委員会主催。玉井清弘さん(83)の「山水」（短歌研究社）に決まった。玉井さんは朝日新聞四国歌壇選者。「山水」は第10歌集。

☆は共選作。入選作はデジタル版にも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。歌壇はネットでも投稿できま